

2025年度 公立大学法人大阪第8回役員会議事要旨

日 時：2025年11月12日（水）9時30分～11時00分

場 所：UR森之宮ビル3階 役員会議室

構成員：福島理事長、櫻木副理事長、酒井理事、丸尾理事、高橋理事、徳永理事、重松理事、
中村理事、宮部理事、帯野理事、藤本理事、藤沢理事(オンライン)

監 事：白井監事、前田監事(オンライン)

陪席者：露口本部事務機構長、大久保本部事務機構次長、石井本部事務機構次長、富宅阿倍野
キャンパス事務局長、柴山企画総括部長、石田総務部長、森岡企画部長、肥田人事戦
略部長、吉岡財務部長、船野学長室長、寺田阿倍野キャンパス事務局事務部長

【報告事項】

1 森之宮キャンパス スマートキャンパス化について

阿多学長補佐より、森之宮キャンパス スマートキャンパス化について報告があった。

<主な意見等>

- ・通学定期券を自動券売機で購入できるよう、学生証の内容や形式を大学間で標準化する動きはあるのか。通学定期券購入のオンライン化は、鉄道業者・学生双方にメリットである。
→全国的な標準化には至っていないが、鉄道事業者では記載内容が十分であればデジタル学生証の利用が認められる事例が増えている。一方で、他大学ではマイナンバーカードやFELICAとの連携を活用する動きも進んでいる。
- ・生体認証システムは導入されているのか。
→森之宮キャンパスではICカードによる認証を採用しており、生体認証は未導入である。既存施設との互換性や費用面の課題があるが、今後の機器更新時に導入を検討したい。

2 入学者選抜に関する中期計画の達成に向けて

池田学長補佐より、入学者選抜に関する中期計画の達成に向けて報告があった。

<主な意見等>

- ・企業側のニーズや大学のブランディングを考慮すると、特別選抜の比率を50%に拡大すべきではないか。取組推進のためには経費の経常予算化も必要である。
- ・AIの進展に伴い、従来型の偏差値重視から「問う力」「考える力」を測る試験への転換が求められている。「問う力」のほかに、学生が主体的に学ぶプログラムを導入することも有効ではないか。
→現在、探求シミュレーション授業導入に向けて高校において試行実施中で、可能な限り早期の開発を進めている。
- ・高校では探求学習が十分でないと感じられる。大学として高大接続センターの設置や出前講義等の積極的な支援が必要ではないか。
→大阪府教育委員会とアドミッションセンターで連携を強化中。今後は探究学習成果を評価する選抜方法の導入も視野に入れている。
- ・現状としては受験する側の意識も偏差値重視であるので、選抜方法を変更する際は受験生や教育現場への具体的な情報提供が不可欠である。

3 大阪アジアラウンドテーブル 2025 の進捗報告

平山特任教授より、大阪アジアラウンドテーブル 2025 の進捗報告があった。

<主な意見等>

- ・海外向け広報について、アジア側のメディアに取り上げられるよう工夫していただきたい。
また、終了後も参加者と更に連携を深めるため、会議を継続的に実施してはどうか。
→国際機関の媒体を活用し、英語による発信を検討中。今後の交流については、毎年の大規模開催は困難であるが、小規模なミーティングであれば継続は可能であるので検討したい。
- ・大学の重点事業の一つである J-PEAKS について、課題や進捗状況等を今後役員会で説明いただきたい。
→既にサイトビジット等の活動が進行している。今後、役員会にて報告の場を設ける予定。
- ・日本の高齢化に対する世界的関心を背景に、大阪アジアラウンドテーブルでは認知症分野での権威としての地位確立を目指していただきたい。

4 第7回輝く女性研究者賞(ジュン アシダ賞)について

櫻木副理事長より、国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST) が主催する「第7回 輝く女性研究者賞 (ジュン アシダ賞)」において、本学が「輝く女性研究者活躍推進賞 (ジュン アシダ賞)」を受賞したことについて報告があった。

【備考】

オンライン会議システムを併用した役員会は、適時的確な意見表明が互いにできる状態であることを確認しており、終始異状なく議題の審議等を終了した。

以 上